



連載

# 知っておきたい「海洋散骨」のイロハ

最終回 海洋散骨ディレクターの役割

和田 睦美

一般社団法人 全国海洋散骨船協会 事務局長 / 海洋散骨ディレクター講師

今号で本連載も最終回となりました。これまで、私の拙い文章をお読みいただきまして、誠にありがとうございました。今回は、連載の締め括りとして、当協会が推奨する「海洋散骨ディレクター」の役割についてお話をさせていただきたいと思います。

## 海洋散骨は新しい葬送儀式

海洋散骨は、近年になって普及した葬送の儀式です。そのため、海洋散骨に適応する法律はなく、その進め方についても伝統的な様式はありません。

海洋散骨最大の特徴は、その儀式的の多くが、海上・船上で行なわれるということです。そのため、ほんの些細な不注意や配慮不足が、ときとして重大な事故に直結してしまう場合があります。

たとえば、お客様の船酔いに対する配慮もその1つです。故人のお見送りのために乗船した船で船酔いしてしまえば、お客様も悔いを残すばかりとなってしまいます。

また、従来の葬送シーンにおける通夜、葬儀・告別式、さらには納骨といった儀式は、葬儀社や宗教者といった葬儀の専門家がすべてを行なってきましたが、これに新たな要素として加わるのが海洋散骨です。したがって、これまでの葬送の流れでは知り得ることができなかった新たな知識や技術、経験、判断力が求められることとなります。

海洋散骨は新しい葬送儀式ですから、今後、さらに創意工夫がなされることによって、「より安全で」「より快適で」「より思い出に残る」海洋散骨の形が生まれてくることは間違いありません。

とはいえ、今後、海洋散骨がさらに国内に定着していくのか、重大事故や周囲からの反対によって海洋散骨が廃れていってしまうのか、その成りゆきについては、先駆者として活躍している海洋散骨ディ

レクターをはじめとする、海洋散骨に関わるすべての方の肩にかかっているといっても過言ではありません。

## 海洋散骨の演出

海洋散骨を仏式や神式で行なう場合、司式者の作法に則ってとり行なうこととなりますが、現在、その多くは無宗教でとり行なわれるケースがほとんどです。そのため、海洋散骨の演出において海洋散骨ディレクターが果たすべき役割はとても大きいといえます。

現状の海洋散骨は、①ご遺族に散骨していただいた後、②献花や献酒などを行ない、③船を旋回したり、汽笛や号鐘で別れを惜しむ、といった流れで行なわれています。

今後こうした流れは、多くの事業者が新たな演出を試みたり、お客様の要望によって変化を遂げつつ、より洗練されたものになっていくでしょう。そうした意味においては、海洋散骨ディレクターは、新しい時代の葬送をつくりあげる重要な役割を担う立場にあるのです。

昨今、一般葬であっても無宗教葬がふえつつあるといわれていますが、実際には、過半数以上が仏式で葬儀を営んでいるはずですが、それでも、海洋散骨は、はじめた当初からその多くが無宗教で行なわれ、受注した各社の創意工夫による演出でとり行なわれてきました。もちろん、そうした演出は、時代の移り変わりとともに、そのスタイルも変化を遂げていくことでしょう。

たとえば、以前は水溶性の紙袋に船上で鉄を入れ、サラサラと粉骨を海上に落とす方法が一般的でした。しかし、最近では、直接、袋を海上に投下する方法がふえています。粉骨は思いのほか軽く、水面より上





和田 睦美 (わだ むつみ)

全国海洋散骨船協会 事務局長

2016年6月、全国海洋散骨船協会設立とともに事務局長に就任。19年、理事会の要請により「海洋散骨ディレクター」テキストを編纂。  
20年1月には、第1回海洋散骨ディレクター講習にて講師となり、現在も継続中



で開封してしまうと風に乗って飛散し、乗船客や他の船に不快な思いをさせてしまうからです。こうしたことから、海洋散骨ディレクター講習では、水溶性の袋を直接海に投下することを推奨しています。

## 海洋散骨ディレクター 3つの責任

全国海洋散骨船協会では、海洋散骨ディレクターが果たすべき責任として、以下の3つを指導しています。

### 1. お客様の代弁者となる

海洋散骨を希望されるお客様は、海のルールやマナーなどはまったく知りません。天候によって船がどのような影響を受けるかについても同様です。だからこそ、海洋散骨で故人を見送りたいという願いを叶えるべく事業者に依頼するのです。

海洋散骨ディレクターには、故人様およびご遺族が希望されている海洋散骨を実現する責任があります。そのためには、ご遺族の代弁者として船長にお客様の要望を伝え、お客様の思い出に残る海洋散骨をとり行なわなければなりません。

お客様の思いをしっかりと受け止め、お客様の代弁者たる存在であり続けることが、最も大切なことなのです。

### 2. 船長に代わってお客様のケアをする

船がひとたび出航してしまえば、船長や乗組員は船の運航に専念します。そのため、海洋散骨ディレクターは、船長に代わってお客様のケアをしなければなりません。乗船したばかりのお客様は、慣れない船に緊張しているはず。海洋散骨ディレクターは、その日の天候の予測、散骨海

域までの所要時間や散骨海域での海況などの説明を行なうとともに、船酔いの兆候などがないか、といった点に留意する必要があります。

たとえば、お客様の視線が低いようであれば、船酔いにならないようデッキに案内するなど、船長の目が行き届かない部分にまで気配りをするのが大切なのです。

### 3. 安全管理者としての役割を担う

当然ながら、乗船客の安全に対する責任は船長が負っています。しかし、安全管理は船長だけが担うものではありません。たとえば、当日の服装については、事前に説明しておく必要があります。具体的には、スカートでの乗船は危険なこと、滑りやすい靴を避けていただくといったことです。

船が出航してからも、お客様が船内で移動する際には、船長に一声かけて速度を落としてもらうといった声かけも、実は安全管理上、とても大切なことなのです。

## 最後に

これまで、本連載をお読みいただき、誠にありがとうございました。全国海洋散骨船協会は、海洋散骨の健全な発展のため、できるだけ多くの皆様に海洋散骨を理解していただき、安全で快適、人に迷惑をかけない、ご遺族の思い出に残る海洋散骨の普及のため、活動を続けてまいります。

協会が主催する研究会では、散骨に関する最新情報の交換も活発に行なわれています。少しでも興味がありましたら、お気軽にお声がけいただき、当会へのご入会、海洋散骨ディレクター講習へのご参加をお待ちしております。

参考文献：海洋散骨ディレクターテキスト

## ■(一社)全国海洋散骨船協会の概要

所在地：東京都渋谷区東3-25-10 T&Tビル／設立：2016年6月／理事長：志賀 司／加盟社数：12社 (2023年3月現在)

協会HP／海洋散骨ディレクター講習についてはこちらから →

